

事後評価調書(案)

I 事業概要																											
事業名	農業農村整備事業(たん水防除事業)																										
地区名	千代田2期地区																										
事業箇所	稲沢市																										
事業のあらまし	<p>本地区は、稲沢市の南部の低平な農村地域に位置している。</p> <p>地区内流域 808ha の排水は、洪水時には自然排水が不可能なため、2か所に設置された排水機場(千代田排水機場、千代田第2排水機場)により二級河川目比川へ強制排水されている。</p> <p>しかし、近年の都市化の進展による降雨流出量の増加や既設排水機場の老朽化に伴う排水能力の低下により、地区の排水状況は著しく悪化し、豪雨時にはしばしば農地や農業用施設、公共施設等に湛水被害が生じていた。</p> <p>このため、機能低下が著しい排水機場(千代田排水機場)を更新整備することにより湛水被害を防止し、農業経営の安定と県民生活の安全・安心を図ることを目的として、平成13年度からたん水防除事業千代田2期地区を実施し、平成22年度に完了した。</p>																										
事業目標	<p>【達成(主要)目標】</p> <p>機能低下した排水機場を更新整備し、農地、農業用施設及び公共施設等の湛水被害を防止する。(計画基準雨量 336 mm/3 日、1/20 年確率雨量)</p> <p>【事後評価に準ずるフォローアップ】</p> <p>該当なし。</p>																										
事業費	事業費	内訳																									
	11.6 億円	■工事費 10.3 億円、■用補費 0.6 億円、■その他 0.7 億円																									
事業期間	採択年度	平成13年度	着工年度	平成15年度	完成年度	平成22年度																					
事業内容	排水機場 1か所																										
II 評価																											
①事業目標の達成状況	1) 主要目標の達成状況	<p>【達成状況】</p> <p>施設供用後からの5年間で、最大3日連続雨量は平成26年8月8日～10日に191.5mm(最大1時間雨量59.5mm)を観測したが、農地や公共施設等の湛水被害は発生していない。</p> <p>降雨実績 (一宮観測所降雨データ)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>計画</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>最大3日連続雨量</td> <td>336.0 mm</td> <td>136.0 mm</td> <td>156.5 mm</td> <td>129.5 mm</td> <td>158.0 mm</td> <td>191.5 mm</td> </tr> <tr> <td>(最大1時間雨量)</td> <td>(54.1 mm)</td> <td>(39.0 mm)</td> <td>(12.0 mm)</td> <td>(38.0 mm)</td> <td>(73.5 mm)</td> <td>(59.5 mm)</td> </tr> </tbody> </table> <p>【達成状況に対する評価】</p> <p>最大3日連続雨量は計画基準雨量以下であるが、最大1時間雨量では計画と同程度の雨量に対して湛水被害は発生しておらず、本事業は地域の農業経営の安定と県民生活の安全・安心に寄与していると評価できる。</p>					区分	計画	H22	H23	H24	H25	H26	最大3日連続雨量	336.0 mm	136.0 mm	156.5 mm	129.5 mm	158.0 mm	191.5 mm	(最大1時間雨量)	(54.1 mm)	(39.0 mm)	(12.0 mm)	(38.0 mm)	(73.5 mm)	(59.5 mm)
	区分	計画	H22	H23	H24	H25	H26																				
最大3日連続雨量	336.0 mm	136.0 mm	156.5 mm	129.5 mm	158.0 mm	191.5 mm																					
(最大1時間雨量)	(54.1 mm)	(39.0 mm)	(12.0 mm)	(38.0 mm)	(73.5 mm)	(59.5 mm)																					
2) 副次目標の達成状況	該当なし。																										

②事業効果の発現状況

【費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化】

項 目		事業採択時 (H13)	実績 (H26)	備考
事業期間		H13～H19 (7年間)	H13～H22 (10年間)	
事業費 (億円)	工事費	11.6	10.3	
	用地補償費	0.7	0.6	
	その他	0.9	0.7	
	合計	13.2	11.6	
効果の算 定要因	流域面積	808 ha	808 ha	増減なし
	農地面積	501 ha	486 ha	減 15ha
	宅地等面積	307 ha	322 ha	増 15ha

【事業期間に対する評価】

たん水防除事業予算の削減等の影響を受け、事業期間を3年延長したが、既存の排水機場を活かしながら工事を進めたため、期間延長による大きな影響はなかった。

【事業費に対する評価】

工事の入札結果（請負差額）等により事業費が1.6億円減で事業完了できた。

【効果の算定要因に対する評価】

事業採択時と比較して、流域面積に増減はなく、農地面積は微減している。

排水機場の更新整備により、湛水被害が防止されており、効果については、概ね計画どおり発現していると評価できる。

③事業実施による環境の変化

本地区は、排水機場の敷地内で行う工事であり、影響範囲が限定的であったこと、また、工事施工にあたり、低振動、低騒音の作業機械を使用するなど、周辺環境に配慮したことから、自然環境や生活環境へのマイナスの影響はほとんどない。

III 対応方針（案）

今後の事後評価の必要性

主要目標が概ね計画通り達成されているため、今後の事後評価は不要である。

改善措置の必要性

主要目標が概ね計画通り達成されているため、改善措置は不要である。

同種事業に反映すべき事項

新しい排水機場の供用開始後に既設排水機場を取り壊すなど、事業実施中は既設排水機場の排水能力の確保に努める。

IV 事業評価監視委員会の意見

V 対応方針